



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町8-25-203 本間重子気付
電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

「高齢者雇用安定法」改正と「全世代型社会保障」改革の問題 伍 淑子(会員)

雇用によらない働き方の導入は 労働法違反ではないか

2019年9月11日、安倍首相は内閣改造に当たって「基本方針」を閣議決定した。その中には「意欲さえあれば、学び、働くことができる、生涯現役、生涯活躍の社会を実現するため、労働制度をはじめ社会保障制度全般の改革を進める。少子高齢化に真正面から立ち向かい、誰にでも、何度もチャンスがあり、多様性に満ちあふれた、女性活躍、一億総活躍の社会を創り上げる」と「全世代型社会保障検討会議」を新設した。9月17日に発表されたメンバーは、経団連会長、サントリーホールディングス代表取締役会長、柳川範之東京大学大学院経済学研究科教授、清家篤日本私立大学振興・共済事業団理事長、国立社会保障・人口研所長、増田寛也東京大学大学院客員教授。委員には経済同友会も加わり、財界の主要メンバーが顔を揃えた。「検討会議」は、4回の会議で中間報告を12月に公表した。

中間報告は、労働、年金、医療、介護のすべての分野にわたって“一億総活躍”を求め、70歳までの就業機会の確保と年金の受給開始年齢の弾力化、パート労働適用の企業規模を現行501人以上から段階的に下げる、75歳以上の後期高齢者医療保険の窓口負担2割の導入、介護保険の一部負担の所得制限の見直し等々、社会保障全体を「改革」とあり、真っ先に医療と介護の「見直し」による利用者負担増と制度の縮小を今年、具体化しようとしている。根底にあるのが健康自己責任論である。

年金財源が足りないと年金削減をする一方で高齢者の労働力を活用拡大して年金支給を規制する、現役世代には中小企業のパート労働者の厚生年金加入の促進をはかる、どこを見ても財界に都合の良い「改革」になっている。結果的に賃金の安い労働者からも保険料が天引きされ、企業規模の小さい事業主にも事業主負担がのしかかる。対策もないままの導入で問題はないのか。年金の受給



開始時期の上限を75歳に引き上げる年金「改正」案も準備している。

今国会に雇用保険法関連法案として7つの法律改正案が一括法として提出された。私たちにとって「悪法」も改善の法案も一括りで採決されてしまう、きわめて問題のある出し方になっている。

以下、今国会に提出されている高年齢者雇用安定法の「改正」法案の最も問題になっている点に絞って記述する。

現行9条は、8年前に「改正」されているが「65歳未満の定年を定めている事業主は…65歳までの安定した雇用を確保するため①定年引上げ②継続雇用制度の導入③定年の廃止となっている。今回は新たに10条の2を設けている。65歳以上70歳未満の定年を定めている事業主は…次に掲げる措置を講ずることにより、65歳から70歳までの安定した雇用を確保するよう努めなければならない。ただし、創業支援等措置を講ずることにより、70歳までの間の就業を確保する場合は、この限りではない」。その2項には、「創業支援等の措置は、労働者の過半数を代表する者等の同意を条件に、委託契約その他の契約を締結して高齢者の雇用を確保する、さらにその事業主が行う社会貢献事業、委託を受けて実施する社会貢献事業」をあげている。請負や委託、いわゆるフリーランスもよし、社会貢献のボランティアもよし、というのだ。労働法の適用を受けられない問題になっているフリーランスを労働法の中に加えるという無謀な改悪。高齢者を突破口に全ての労働者に拡大しないという保証はない。現に派遣法が導入されたとき、「女性の多様な働き方」の選択肢を限定して導入する、と政府は答弁していた。結果はどうか。

労働組合の運動で高年法案の問題点が国会審議で広がったが、残念ながら衆議院で3月19日に採決された。附帯決議を検討し、これからの運動につなげたい。

また一つ約束流れ春の雪
農業を語る若者山笑ふ
佐知子

八王子市長選で女性候補を応援して 伊藤 セツ(会員)

2020年1月26日が投票日でした。立候補者4名。当日有権者数46万6,207人、投票者数14万6,680人、投票率はたったの31.46%。結果を先に言えば、当選者は現市長の男性で78,272票、応援した女性候補は2位で47,426票。



この市長選に、36歳という若い女性弁護士、白神ゆりこさんが、投票日1カ月前に、市民と野党の連合の「確認団体」である「平和、暮らし、環境市民でつくるチーム八王子」から押されて立候補したのです。もう年末年始もない大変な忙しさでした。

気が付けば私は、この「確認団体」の共同代表6人（男性3人、女性3人）の1人となっていました。白神さんが立候補してくれなかったなら、投票すべき人がなくて、どうするところだったでしょう。

横浜にカジノはいらない 佐久間由美子(会員)

2019年8月、横浜市のエリ市長が突然カジノ誘致を表明したことから、横浜市では、「市長は公約違反だ」と「カジノの是非を決める横浜市民の会（市民の会）」が広範な市民と労組・民主団体・政党などの参加で結成され、反対運動が大きく広がっています。「市民の会」では、「市長は勝手に決めないで」と「住民投票でカジノ誘致の是非を」求め、住民投票条例の直接請求運動を提起しました。法定必要数の5万筆を上回る50万筆（市長リコール必要数）の署名を目標にし、市議会に否決をさせない運動をめざしています。18区すべてに「区民の会」が結成され、駅頭や戸別訪問での受任者（サポーター）登録活動が活発に進められ、すでに署名を集める受任者の登録が3万4千人を超え、4月24日から2カ月間に受任者が「住民投票条例制定」の署名を開始する予定です。

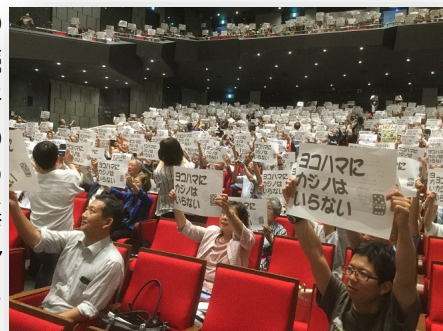
この間様々な集会がとりくまれました。1月16日には、「カジノ誘致反対横浜連絡会」主催の「新春決起集会」が開催され、会場からあふれるほどの130人が参加し、熱気ある集会となりました。2月6日には、「市民の会」主催の住民投票受任者説明会が開かれ、211人が参加しました。岡田尚運営委員長は「受任者の目標5万人を早期に実現するため、2月、3月に集中期間を設けてがんばってほしい」と呼びかけ、大川隆司運営委員が

白神さんの立候補には当落に関係ない特別の意義がありました。私は、事務所開き、告示第一声から応援演説をして、選挙カーや、政策連携カーに乗り込んで、マイクを握りました。「八王子に市政が敷かれて103年。女性が参政権を得た戦後も19回選挙で選ばれた市長は、すべて男性でした。第20回目の今回の選挙に初めて女性が立候補したのです。そしてこのことは八王子を超えて大きな意味があります。まず、日本のジェンダー格差は、153カ国中、121位ですが、もっとも遅れているのは政治分野で、144位です。今回の女性の立候補は、日本全体の男女平等の底上げに、この八王子からの貢献を意味するものです！世界のジェンダー平等の潮流に沿ったものです！云々」私はこのことを強調する係りでした。

4年前の選挙の時は、市民野党連合の魁を、今回は初の女性候補の応援を、という得難い経験をしました。今回も多く新しい友人・知人を得、世界は広がり、ともに現状を変えようとする共感の喜びがありました。

でも選挙運動の壮絶なさ中に、私の81歳の誕生日が無常過ぎて行き、共同副代表をしている「女性労働問題研究会」の編集の仕事が山と溜まって困りました！

「署名収集時の留意点」「手続きの流れ」「署名の有効無効の判断」などについてQ & Aに基づき説明しました。2月23日には、かながわ県民センターで、「カジノ反対全国シンポ横浜集会」が開催され、東京や大阪からの参加者を含め150人が参加しました。



横浜市は、12月から18区での説明会を開始しましたが、一方的な説明、市民の意見を聞かない、運営に問題などの批判を浴びるものでした。

（新型コロナウイルス対策を理由に、18区のうち10区で中止）2月には「広報よこはま」の号外で、市に都合のよい情報、データを掲載して「市民の理解に努める」と一方的に宣伝しています。また説明会後に実施するとしていたパブリックコメントを、説明会を全区で実施することなく、3月から開始しています。

さらに横浜市は新年度予算に4億円を計上しましたが、野党の共産党だけでなく与党の立憲・国民フォーラムも反対を表明しています。市民の会だけではなく、港のドンこと藤木幸夫さんや元自民党県連会長の梅沢健治さんなど保守層も誘致反対を表明するなど、運動は大きく広がっています。

君嶋ちか子がゆく⑱

…神奈川県議会報告

人権侵害といじめのない 学校をめざして

2年前ある県立高校の教師が、髪の色が茶色のAさんに「地毛証明」の提出を求めました。提出すれば、髪の毛について注文を出さないという言葉信じて不本意ながら、Aさんは応じました。

ところが、それ以降も差別的対応は止まず、2年生の終わり、髪の毛を理由としてAさんは卒業式の出席を禁じられました。しかも晒し者のように、入場者が通る渡り廊下に立たされ。Aさんは、このことがきっかけで、登校が困難となりました。

その後、Aさんの個人ロッカーの鍵が教師によって断りなく壊され、中の荷物が廃棄同然に放置されるという事も起きました。

さらに教師が事態を正確に語らなかったことが、生徒からのいじめをも誘発し、3年生の日々は実質的に奪われました。



卒業後1年経つ今もその傷に苦しめられているAさんと保護者は、立ち直りのきっかけとして、教師に心からの謝罪を求めましたが、学校も教育委員会も頑なに拒んでいます。

行政や議会は教育環境の整備には貢献こそすれ、教育内容や学校運営には、安易に踏み込むべきではないと思っています。教師の努力に対しても然りです。教育委員会が行政から独立していることの意義を尊重したいからです。

でも、人権侵害やいじめに至れば、看過する訳にはいきません。相談を受けてからの個別の調整では十分な対応を得られなかった為、少しでも教育委員会の姿勢を正す事に繋がればと、質問でとりあげました。

ところが、教育委員会は個人情報秘匿を理由として一切語りませんでした。私は個人の特定に至らないよう質問し、かつ教育委員会の認識を聞いていますから、逃げ切ろうとする意図は明らかでした。

学びと成長を保障すべき学校が、生徒の学校生活を奪い、その後の人生にもつまづきをつくり出しています。

誤りを正す努力が不適切な故に誤りを拡大させ、何より生徒の人生に寄り添う姿勢が全く感じられない教育委員会のブラック度に、暗澹たる思いと怒りを覚えています。

映画が好き

「レ・ミゼラブル」

池田 資子（会員）

2012年に公開された「レ・ミゼラブル」はヴィクトル・ユゴーの小説をミュージカルとして映画化したものだった。ラストの大合唱を覚えている方も多いと思う。同名の今回の映画は全く内容が違うが、冒頭、国旗が翻り国歌が響き渡る場面は前作と同じく感動と興奮を感じる。2018年サッカーW杯でフランスが優勝し、それを祝福する歓喜の大群衆だ。

舞台はパリ郊外のモンフェルメイユ。開発から取り残され移民や低所得者が多く住む団地は犯罪が多発している。監督・脚本のラジ・リはアフリカ系移民で、この街で育ち、今もここに住んでいる。実体験に基づくからだろうか、映像は緊張感に満ちている。観光と花の都パリのすぐ近くで、このようなことが日常的に起こっているとは…

ある少年がサーカスからライオンの子どもを盗んだことがきっかけとなり、犯罪対策班の3人の警官が動き出す。人種差別をあらわにする白人リーダー、地方から転勤したばかりの警官、そしてアフリカ系の若い警官。彼らの会話や行動から、様々な民族が住むこの街の問題が見えてくる。他にもいくつかの勢力がある。少年・少女た



ちと警官の関係も険悪だ。犯人捜しはとんでもない方向へと進んでいく。少年たちに囲まれ大混乱の中、警官がゴム弾を発射、その一部始終をドローンで撮影されてしまう。警官は動画データを手に入れ失態を隠蔽しようとする。そして、事件は収まるかにみえた。

騒動の本質は何か。人々の間にある不信感、少年たちは居場所が無く怒りを感じているようだ。現在の「悲愴」そのものが衝撃のラストシーンへ。息詰まる攻防の結果は？

カンヌ映画祭で「パラサイト 半地下の家族」と最高賞を争った映画だ。島国の私たちには圧倒的貧困を描いた「パラサイト」が理解しやすいが、他民族化が進み、異文化との関わり、貧困の拡大によって日本でも同様のことが起きるだろう。

映画はユゴーの次の言で終わる。「友よ、よく覚えておけ、悪い草も悪い人間もいない。育てる者が悪いだけだ」。

希望が湧いた「ジェンダー平等と労働組合」の学習会 中嶋ひとみ(会員)

2月20日、ピオシティのさくらリビングミーティングルームで神奈川県労働者学習協会主催の「ジェンダー平等と労働組合」の学習会が開かれました。はじめに神奈川労連労働相談センターの澤田幸子事務局長の講演があり、その後参加者約20人が2グループに分かれて、身近に感じているジェンダー平等や澤田さんの講演の感想などをディスカッションしました。

日本のジェンダーギャップ指数が153カ国中121位と大変な後進国であることは知っていましたが、その要因が男性の半分という低賃金や女性政治家の少なさにあることまではよく知りませんでした。しかし、ジェンダー平等の社会実現がどんなに国際的な目標になろうとも、財界の声を代弁する経済政策や復古主義、軍事優先を強化するアベ政治を転換しない限り改善は望み薄だと思っていました。そんな中で今回の学習会のサブテーマは「今、なぜ、ジェンダー平等なのか」でした。はじめは労働組合とジェンダー平等とが結び

つくのかピンときませんでした。労働相談は増大し続け、労働組合を必要とする人たち（女性や非正規、外国人など最も不平等な賃金差別や労働条件の悪い待遇を受けている人たち）にとって、今こそ労働組合の力が望まれている時代はないと澤田さんは指摘していました。

なるほど一番苦しんでいる人たちこそ社会を変える力を発揮する、だから今こそ労働組合が、労働者の真の味方として賃金の不平等を排除し、労働条件改善のために力を尽くし、また、ジェンダー平等の諸政策を積極的に推進していくことが求められているのだと実感できました。

女性の、労働組合への参加を図ることによって、男女共通の労働時間短縮や全国一律最低賃金制度の実現、ひいては人間らしい労働の実現に向えるかもしれないと、希望が湧くような学習会でした。



『学習運動ニュース』No.489より

—2020— 国際女性デー 全世界で様々なとりくみが……

3・8



だれもが生き生きと、 自分らしく輝ける社会へ



↑ 高齢女性の実態を話す伍淑子さん

3月8日は国際女性デーです。この日は世界中で平和とジェンダー平等を求め、集会やデモが行われています。とりわけ、性暴力に抗議し、「もう、黙るのはやめよう」とのフラワーデモは広がっています。

今年の神奈川での国際女性デーは、室内での講演を聞くスタイルではなく、外へ出てパレードを行う予定でした。が、新型コロナウイルスの影響で桜木町駅前でのスタンディングとなりました。あいにくの雨でしたが、30人を超える参加がありました。「戦争もハラスメントもいらない。世界の女性と手をつなごう」とプラカードを持ち、日ごろの思いをリレートークでつなぎました。

WWFKの会員の伍さんは高齢女性の実態、佐久間さんはジェンダーギャップ指数の最低クラスの日本の現状、小島は安全・安心な食糧は家族農業を守ることから、と訴えました。

(小島 八重子)